

主要諸元：（Aプレミアム）

- 全長×全幅×全高／4,645×1,760×1,470mm
- ホイールベース／2,700mm
- トレッド／前：1,530mm 後：1,540mm
- 車両重量／1,750kg
- 最小回転半径／5.1m
- エンジン／1,797cc直列4気筒DOHC
- 最高出力／98ps／5200rpm
- 最大トルク／14.5kgf・m／3600rpm
- モーター最高出力／駆動用72ps 発電用31ps
- モーター最大トルク／駆動用16.6kgf・m 発電用4.1kgf・m
- JC08モード燃費／37.2km／ℓ
- ミッション／電気式無段階変速機
- ブレーキ／前／ベンチレーテッドディスク 後／ディスク
- タイヤサイズ／195/65R15
- 駆動方式／FF
- 乗車定員／4名
- 車両本体価格(札幌地区)／4,241,160円(税込)







## ディーラーメッセージ

札幌トヨタ  
琴似支店  
新車第二課

**小原 健さん**

デザインにひかれて試乗された多くの方々が、加速と走りの良さに驚かれます。従来のユーザーの方々は、静粛性が高くなったと納得されます。そのほかにも、新型プリウスPHVにはたくさんの魅力が詰まっていますので、ぜひ一度ご自身で試乗して、直に感じていただきたいです。



がない。新型プリウスPHVに搭載されたのは「Toyota Safety Sense P」。衝突回避と被害を軽減するプリクラッシュセーフティシステム、車線逸脱を知らせステアリングを制御するレーンデパーチャーアラート、先行車や対向車に当たる部分だけを自動的に遮光するアダプティブハイビームシステム、先行車との車間距離を保つレーダークルーズコントロール、駐車時のステアリング操作をアシストするシフトインテリジェントパーキングアシストなどの機能を、ミリ波レーダーと単眼カメラの組み合わせによってより高い精度で制御する。

## インプレッション

### 走るだけではない魅力

グレード構成は、エントリーモデルの「S」と装備を充実させた「A」に分かれ、前者にはナビパッケージ、後者にはレザーパッケージのほか、今回試乗に提供された最上位モデルのAプレミアムが用意されている。

着座してまず目に入るのは、インストルメントパネル中央部に縦に配置された11.6インチT-Connect SDナビゲーションシステムである。通常のナビゲーション機能に加え、充電ステーションの検索、タイマー充電の設定、エアコン操作などができ、スマートフォンと連動させ車外からアプリを通じて操作することも可能なのだとか。また、万一盗難にあった場合は、所有者の意志に従って車両の位置情報の追跡などに役立てることもできる。しかし何と言っても最大の効果は、進行方向に対して広い視野が得られる縦位置の路面図が展開されることである。特にタブレットを使ったことがあるドライバーにとっては馴染みやすく、また扱いやすさという点でも優れている。

EV走行がもたらす快適な走りは、前もって筆者が想像した以上であった。特に発進のスムーズさ、抜け目ないクイックな加速フィールはケチのつけようもない。また高いボディ剛性と相まって、静粛性のレベルが極めて高く、高級サルーンにも勝るとも劣らない段差を乗り越える衝撃音もしっかりと吸収していることが肌で感じられ、エンジン走行時でもその静けさに驚きはなく、アッパー志向のドライバーも十分に納得できるに違いない。

ハンドリングは適度な硬質感があり、コーナリングの際に伝わってくる車体の安定感との相乗効果で、十分にスポーティーな走りを味わうこともできる。スタイリングから言えばシティーユースに相応しいクルマと言えるが、この高い運動性能を目的にしたりした多くのドライバーが、悪路での走行やアウトドアシーンにもどんどん乗り出していくようになるだろう。それだけのポテンシャルを、十分過ぎるほど兼ね備えていると断言できる。

高速走行においても、前評判通りEV走行でも余力十分である。ホールド感にも優れたシートはゆったりと心地よく、長時間ドライブでも疲れ難い。

アウトドアと言えば、新型プリウスPHVに搭載された大容量バッテリーは、走行以外の用途にも利用可能だ。専用のコネクタを差し込めば、100Vのコンセントに早替わりし、合計1500Wまで対応するというから恐れ入る。キャンプなどのレジャーシーンにももちろんのこと、例えば災害避難時などにもプリウスPHVは人々にとって非常に大きな手助けとなってくれるだろう。新型プリウスPHVは、クルマと人との新たな絆を提言したと言っても決して大袈裟ではないと感じた。